



令和3年度外務省 NGO 研究会 シンポジウムのご案内

これからの国際人道支援について考える:

—支援の現地化（ローカリゼーション）の課題と可能性—

2016 年の世界人道サミットで採択された、人道支援の効率化を目指す国際的コミットメントである「グランド・バーゲン」。9 つの優先課題のうち、2 番目は「支援の現地化/ローカリゼーション」と呼ばれ、人道支援を現地アクター主導で実施する形へ変革していくことを目指すものです。今後、人道危機への対応にあたっては、現地組織がより重要な調整の役割を担い、現地的心声をしっかりと反映し、より効果の高い支援活動を実現していくことに期待が高まっています。そのためには、資金拠出のあり方やそれに伴うパワー関係を根本的に見直す必要もあります。

今般、現地組織関係者からの声や意見を中心に紹介、日本の支援関係者が現地化の議論を把握し、この潮流を汲んで今後日本の支援のあり方を検討していくためのシンポジウムを開催します。

- 日時:2021 年 10 月 27 日(水)15:00-17:00
 - 会場:ZOOM オンライン
 - 登壇団体:Network for Empowered Aid Response (NEAR)(調整中), Pujiono Centre (インドネシア), UNICEF 中東・北アフリカ地域事務所
 - 言語:英語(日本語同時通訳あり)
 - 参加方法:下記のリンクからお申込みください。申し込みされた方には、シンポジウムの前日に ZOOM リンクを送付いたします。
- [これからの国際人道支援について考える:支援の現地化\(ローカリゼーション\)の課題と可能性 \(google.com\)](#)
- お問い合わせ: TEL 03-5423-4511 localization_ngo@aarjapan.gr.jp 担当:三木
 - 主催:外務省 実施団体:[AAR Japan] 難民を助ける会